

令和 2 年 3 月 27 日

豊洲市場における地下水等管理に関する協議会

座長	東京農工大学名誉教授	細見	正明
委員	富山大学大学院教授	丸茂	克美
委員	岡山大学名誉教授	西垣	誠

空気測定結果及び地下水質測定結果（濃度確認・全体確認モニタリング結果）について

1. 対象

空 気：令和元年 12 月、令和 2 年 1 月、2 月採取分

地下水質：令和 2 年 2 月採取分

2. 空気測定結果について

- ① ベンゼンの測定結果については、建物 1 階部分は $0.0007\sim 0.0020\text{mg}/\text{m}^3$ 、屋外は $0.0007\sim 0.0019\text{mg}/\text{m}^3$ 、地下ピット内は $0.0003\sim 0.0021\text{mg}/\text{m}^3$ であった。
水銀の測定結果については、地下ピット内で不検出($0.004\mu\text{g}/\text{m}^3$ 未満)～ $0.014\mu\text{g}/\text{m}^3$ 、その他の箇所については、不検出($0.004\mu\text{g}/\text{m}^3$ 未満)であった。
シアンの測定結果については、不検出($0.002\text{mg}/\text{m}^3$ 未満)であった。
- ② ベンゼンの大気環境基準（国が定めた人の健康を保護する上で維持することが望ましい基準）は、「1 年平均値が $0.003\text{mg}/\text{m}^3$ 以下であること」であり、不検出 ($0.0003\text{mg}/\text{m}^3$ 未満)を $0.0003\text{mg}/\text{m}^3$ として計算した場合、建物 1 階については、昨年 3 月からの 1 年平均値が、加工パッケージ棟及び水産仲卸売場棟で $0.0010\text{mg}/\text{m}^3$ 、青果棟で $0.0011\text{mg}/\text{m}^3$ 、補助 315 号線連絡通路内で $0.0012\text{mg}/\text{m}^3$ 、水産卸売場棟で $0.0013\text{mg}/\text{m}^3$ となっている。屋外については、同じく昨年 3 月からの 1 年平均値が、6 街区及び 7 街区で $0.0009\text{mg}/\text{m}^3$ 、5 街区及び補助 315 号線連絡通路横で $0.0010\text{mg}/\text{m}^3$ となっている。地下ピット内については、同じく昨年 3 月からの 1 年平均値が、水産卸売場棟で $0.0006\text{mg}/\text{m}^3$ 、加工パッケージ棟で $0.0008\text{mg}/\text{m}^3$ 、青果棟及び水産仲卸売場棟で $0.0009\text{mg}/\text{m}^3$ となっている。このことから、いずれも大気環境基準に適合していることが確認できる。
- ③ 水銀の有害大気汚染物質に係る指針値（平成 15 年 9 月 30 日環管総発 03093004 号）は、「1 年平均値が $0.04\mu\text{g}/\text{m}^3$ 以下であること」である。不検出 ($0.004\mu\text{g}/\text{m}^3$ 未満)を $0.004\mu\text{g}/\text{m}^3$ として計算した場合、昨年 3 月からの 1 年平均値が、水産仲卸売場棟地下ピット内で $0.0047\mu\text{g}/\text{m}^3$ 、その他の箇所で $0.004\mu\text{g}/\text{m}^3$ となっており、いずれも有害大気汚染物質に係る指針値に適合している。水産仲卸売場棟地下ピット内において、微量の水銀が検出されているが、市場の環境に影響を及ぼす状況にない。今後とも空気測定を継続し状況を確認していくことが大切である。

以上の結果から、建物 1 階、屋外及び地下ピット内のいずれの空気についても、前回の調査結果(12 月 25 日公表)と同様に、科学的な視点から安全は確保された状態にあると考えられる。

3. 地下水質モニタリング調査結果

前回の調査結果（12 月 25 日公表）と比べ、濃度が上昇傾向を示した地点や低下傾向を示した地点も存在しているが、全体的に見れば、大きく汚染状況が変化した傾向は確認できない。

以上